

カテイラン

素人に出来る
副業に養兔

兔は愛玩用としても副業として、女小供に造作なく飼養出来るものです。近頃兔肉の需要が非常に増してきましたし、毛皮は加工して工製品になるので、あちらこちらに養兔奨励會なども出来、従つて價格もよくなりました。はじめ仔兔を幾つがひか買つて飼養し、生後四五箇月になると賣るのですが、蕃殖力がはげしいので、次から次にふ

やして種トを多くすれば、比較的短い期間に利殖の方法がついで参ります。今大體の計算をしてみますと、仔兔一つがひを六圓で買ふとします。それが三箇月経ちますと五六疋の小さいのを分娩いたします。一度分娩しはじめると、大抵二箇月位毎に分娩しますが、一年に六七回三五六疋を生みます。それを目方四百目位になるまで飼育して、一疋現在の相場一圓四十錢で賣ると四十九圓になり、十三圓と。その六圓で求めた種兔が純益として残ることになります。これは一つ

がひの事ですから、数多く飼育すればそれだけ多くの利を見られるわけで、現在五百疋を飼つて、大規模にやつてゐる人さへあります。これには飼料の事が少しも含まれて居りませんが、食物は路傍の草、臺所の廢物、其他何んでも、刺戟物の外はどんな物でも食べますから時には豆腐のカラなどを買つて與へるとしても費用はかかりません種兔を求めに於けるにはこの邊では城山の養兔場に行きます。又飼育した兔も買ひ上げてくれるそうです。詳しい事はそこで聞かれます。

常磐文藝

客馬車 飯村 閑舟

砂塵を蹴つて寒空の田圃や小さな部落の藁葺百姓の家の間を繞つて走る客馬車に腰掛く人の顔は赤染めて温か、冷やか知れぬ氣合肥滿の体軀の一紳士頻りと新聞を擴げて黙讀すれば隣接の客人盗目にてその新聞を眺む

馬子は喇叭をトテトと吹鳴らして馬をせがむ馬は懸命な汗ばんだからだも厭はずに蹄の音を立てつゝ濱町をめがけて駛り行く

歳末大賣出し

新一月二十日より七日間
舊十二月十五日

友仙モス 一丈物 十八錢より
白時赤ネル 一丈物 一圓五十錢
綿ネル 一丈物 九十五錢
木綿裏地 一丈物 一圓五十錢
ニコノ 一丈物 一圓五十錢
遠州正絹 一丈物 一圓五十錢
瓦斯 一丈物 二圓五十錢
絹大島 一丈物 二圓五十錢
本場銘仙 一丈物 八圓五十錢
御召類金紗、メリヤス、ふりまき
二重廻シ、其他種々
平町土橋通り

鹽屋吳服店 (電話二二番)

看護婦派の求めに應ず

平看護婦會
電話三〇七番

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める

平町長橋町三五
川崎文庫
(申込次第規則書進呈)

毒氣ある身體にてた困りの御方は
毒退丸の効能を
試みられよ!!!
効能としては梅毒、痔病、胎毒、淋病、消渴、瘰癧、質斯等凡て毒氣ある身體に特効あり

石城郡内郷村小島
毒退丸販賣本舖
山下重愛堂
☑ (其他全國到處に特約店あり)

株式買中値

左記の値段は日本の標準値に付御用の節は御問合願候

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一二五	一〇五
磐城實業	三〇〇	三〇〇
田村實業	一二五	一二五
四倉銀行	一二五	一二五
農工銀行	二〇〇	二六〇
同新	一五〇	二〇〇
日七銀行	五〇〇	五三〇
同新	一二五	一四五
七七銀新	一二五	九五
郡山電氣	五〇〇	三七五
同新	二五〇	一七五
只見川電	一二五	六〇
植田水電	一二五	一四五
好間水電	一二五	一三五
磐城製菓	二〇〇	五五
磐城製菓	二〇〇	六五
平信託	五〇〇	四九〇
磐城製菓	一二五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製氷	二〇〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一九〇
小田炭礦	二五〇	七五
磐城炭礦	五〇〇	三八〇
同新	二二五	一六〇
磐城セメ	五〇〇	九一〇
同新	一七五	三七〇

丸登株式会社
平町田町電話三三三番
川添房二郎



刊夕日二廿月一

價定 一部金貳錢 月極 二限リ一ヶ月卅錢

料告廣 五號十三字詰 一行五十錢

日刊休 日曜 大祭 祝日の翌日

所刷印 福島縣石城郡平町 田町十六番地 磐城新聞社印刷部

編輯人 川崎文治

發行兼 印刷人 川崎文治

我立憲政友會諸君に(一)

政友會總裁 高橋 是清

茲に時局に對する意見を開陳し、普ねく我が立憲政友會員諸君に告げんとす。

國難復興の事業未だ其緒に就かず。邦畿の慘狀依然として瘡痍猶癒むざる時不慮の政變勃發して閣臣悉く罪を闕下に待ち。物情騒然として年を越ゆ。清浦子爵樞府より出で、臺閣に立つに迫り。時局僅かに安定せるが如きも。憲政の危機更に從是動かんとす。是れ實に我黨が進退去就の決を明

かにして。人心の歸嚮を正すべき秋なり。願るに余類七十一。氣力復た昔日にあらず。乏しきを我立憲政友會者裁の任に受くと雖も固より資格の之に適ふものなく。曾て志を當世に絶ちて老來長く自由の身たらんことを願ふに方り。故原君不測の遭難に會し。偶然の運命は余が風月の素願を禁じて現在の境遇に服せしめたり。奈何せん。微力薄徳事志と違ひ寢食爲に安からず。一日を経る毎に鬚邊一莖の霜を摧くの感無き能はず。就任後三閱年幸に在來の黨務を支持して天下の倚

重を失はず。是れ一に諸君勉勵の致す所。喜び之に過ぐる莫し。而も大勢は必ずしも我黨に有利ならず。加藤内閣より山本内閣に及べる徑路は。何等進歩を形跡せず。其弊清浦内閣に至つて極まり。政局の情勢反覆沈痼して時代錯誤に墮す。苟くも天下の中心勢力を以て任する我黨にして奮起せずんば。誰か克く狂瀾を既倒に回へずを得ん



